



心理系大学院受験 合格する人・しない人 (諸説あり)

1. 志望校選択

合格する人	合格しない人
<input type="checkbox"/> 現実的な志望校選択	<input type="checkbox"/> 非現実的な志望校選択
<input type="checkbox"/> 複数校受験	<input type="checkbox"/> 第1志望しか受けない

志望校選びのうまい人は、目標設定の仕方が上手な人です。目標設定をうまくするためには、まず自分の現在の実力を正確に把握すること。そこから「半年から1年間頑張ったら合格する可能性が高い大学院」を第一志望に設定することが大切です。自分の志望校選びが現実的かどうかを知るためにも模試を活用して自分の実力を客観的に把握しましょう。

また合格確率を高くするために、複数校を受験することも大切です。大学院受験の可否には不確実要素が必ず含まれます。学力は十分にある受験生でも不合格になることがあります。そのようなリスクをできるだけ少なくし、合格確率を高めるためにも複数校受験をおすすめします。

2. 勉強時間

合格する人	合格しない人
<input type="checkbox"/> 多い	<input type="checkbox"/> 少ない
<input type="checkbox"/> 毎日勉強時間を確保している	<input type="checkbox"/> 勉強する日としない日がある
<input type="checkbox"/> 勉強を習慣化できている	<input type="checkbox"/> 勉強を習慣化できていない

当たり前のことですが、合格する人は勉強に費やす時間が多いです。直前に焦って詰め込んでも、前々から着実に日々努力をしている人を追い越すことはできません。

「絶対に大学院に行きたい」「臨床心理士になりたい」というモチベーションの強い人は、自ずと勉強にも身が入ります。勉強時間が少ない人、勉強する気がおきないのは、もしかすると大学院進学へのモチベーションがそれほど高くないのかもしれない。このような方は、本当に大学院進学をしたいのか今一度じっくり考えてみましょう。

ただ、モチベーションがそれほど明確ではなくてもしっかり勉強時間を確保して合格する人もいます。勉強時間をどう作り出すかは受験生の大きな課題ですが、コンスタントに勉強時間を確保できるよう、自分に合った仕組みづくりを工夫してください。



3. 心理学の勉強

合格する人	合格しない人
<input type="checkbox"/> アウトプットの練習に時間をかけている。	<input type="checkbox"/> アウトプットの練習に時間をかけていない。
<input type="checkbox"/> 過去問分析をして、それをもとに重要ポイントを集中して勉強する	<input type="checkbox"/> ノートづくりに時間をかけすぎている。
<input type="checkbox"/> 各ジャンルバランスよく勉強している	<input type="checkbox"/> 勉強の手を広げすぎて、出ないところまで深堀りしている。
	<input type="checkbox"/> 好きなジャンルしか勉強していない。

受験勉強で気を付けるべきことは「勉強した気になる」「分かった気になる」ことです。分かりやすい授業、分かりやすいテキストは「分かった気」になりますが、それが必ずしも「テストで書ける」につながる

わけではありません。受験生はできるだけアウトプットの練習に時間を割くようにしてください。

中にはそもそもテキストを読んでも内容把握ができていない受験生もいます。この場合、インプットが間違っているのでは、間違えたアウトプットになってしまいます。そのような方は、一般向けの心理学テキストや読みやすい参考書などを補助教材として利用し、内容を正しく理解するようにしましょう。

また、「知識を根本から理解したい」というタイプの方もいます。知的な好奇心が強いことは基本的にはプラスだと思いますが、受験勉強に限っていうと、フォーカスすべきポイントからはずれたところに力を入れてしまうことにもなりかねません。また情報量が多いと返って知識同士が干渉しあい成績が悪くなることもあります。効率よく勉強するためにも必要な知識を取捨選択をして、覚えるべき内容に集中するようにしましょう。



4. 英語の勉強

合格する人	合格しない人
<input type="checkbox"/> できている／できていない所を理解している	<input type="checkbox"/> どこが分からないのか分からない
<input type="checkbox"/> とにかく自力で最後まで訳してみる	<input type="checkbox"/> 分からないと思うとすぐに訳すのをあきらめる
<input type="checkbox"/> 辞書をこまめにひいている	<input type="checkbox"/> 辞書をまめにひかずにあてずっぽうで訳す
<input type="checkbox"/> 復習に時間をかけている	<input type="checkbox"/> 復習に時間をかけていない

もちろん英語の勉強でも継続する力が最も大切です。必ず毎日英語に触れるようにしてください。

英語力を向上させるためには、「どこができていてどこができていないか」を客観的に理解し、できていないところをできるようにする勉強が重要です。予習をしたときは、「なんとなく分かった」「なんとなく分からない」ではなく、「この文は文法的に理解して訳せた」「この文はここまでは文法的に理解できたが、この部分はどうか訳せばいいか悩んだ」というように具体的に把握するようにしましょう。

また、英語の学習では復習も大切です。和訳を読んだり解説を聞くのと分かったような気になりますが、もう一度英文を復習してみて、文法どおりに理解できるかどうか訳すトレーニングを必ず習慣化しましょう。

5. 過去問を解く／研究計画書

合格する人	合格しない人
<input type="checkbox"/> 早めに過去問を解いて、出題傾向を分析	<input type="checkbox"/> 試験直前まで過去問を解いていない
<input type="checkbox"/> 繰り返し過去問を解く	<input type="checkbox"/> 過去問をざっと見るだけで、実際に解かない
<input type="checkbox"/> 研究計画に早めに取りかかる	<input type="checkbox"/> 願書締め切りギリギリに研究計画書を完成させる

過去問を解くことと研究計画書作成はとにかく早めにとりかかりましょう。

過去問を解くと出題傾向が分かるので、日々の勉強でも、どのような範囲を重点的に勉強すればよいかを理解でき、効率的な勉強をすることが可能になります。また、過去問で出題された内容と全く同じ問題や関連知識が問われることもありますので、過去問は必ず解いておきましょう。

研究計画書はできれば願書提出の最低でも1か月前には完成できるよう、早めに準備をしておきましょう。願書提出ギリギリまで研究計画書の作成に取り組んでいると、受験勉強のラストスパート期に勉強する時間が少なくなるということになります。早めに研究計画を完成させ、入試直前は受験勉強だけに専念できる環境を作りましょう。

